

(第2号様式)

森特第 1920 号
令和5年2 月16日

沖縄県教育委員会教育長 殿

沖縄県立森川特別支援学校
校長 新屋敷 誠
(公印省略)

令和4年度県立学校学校評議員の運営状況について(報告)

令和5年2月10日付け教県第1995号により依頼のありましたみだしについて、下記のとおり報告します。

記

1 日時、場所、出席状況等

第1回	日時	令和4年 7月7日(木)	場所	紙面開催	出席 状況	紙面開催
第2回	日時	令和4年 12月1日(木)	場所	本校多目的室	出席 状況	又吉安一、伊川幸子、仲田朝代
第3回	日時	令和5年 2月10日(金)	場所	本校多目的室	出席 状況	又吉安一、伊川幸子、仲田朝代

2 学校評議員に求めた事項

第1回:(紙面開)本校の学校経営方針、令和4年度学校行事計画、各学部一学期の取り組みの成果と課題。
第2回:授業見学参観、各学部の二学期の取り組みの成果と課題 学校評価(保護者職員生徒)の結果報告、概要説明、運動会ビデオ視聴
第3回:各学部の3学期及び1年間の取り組みの成果と課題、ハートアート展ビデオ視聴

3 学校評議員の意見

・運動会の様子に感動した。オンラインによる取り組みが良かった。ミラソル通信でも今回の運動会を紹介した。県内にミラソルの様な就労定着支援事業所は16箇所しかない。B型事業所よりも遙かに少ない状況。森川特支の卒業生は利用者は3人。いじめなど教育現場の問題も大変だが頑張っている。
・各学部の取り組みに関して粘り強く頑張っている印象である。様々な取り組み感動した。生徒の成長を皆で願って生徒が主役として前にいる印象であった。

4 学校運営に反映した事項

・生徒へのいじめアンケートの再度の実施。職員による講話。何でも意見ができる「意見箱」の設置。
・進路の関する取組で、中高職員が協働して取り組み就業体験報告会を中学部生徒も合同で参加し系統した取り組みを実施した。
・ハートアート展では日頃の授業の成果を発表し、児童生徒の自己肯定感を養うことができた。
・コロナ禍で制限がある中、親子ものづくりのイベントでは、「絞り染め」を行い保護者や職員が協力して開催することが出来た。

5 課題その他

・登校できない生徒の興味や関心を引き出す工夫、安心して登校できる環境づくり。
・学部だより等情報発信の工夫
・学期1回の生徒アンケートの実施
・小規模校ならではのPTA活動に関した保護者が参加しやすい取り組みの工夫。